明治四十四年十二月十五日（金曜日） 第八百四十一號
日刊 月曜及祭日之翌日休刊
明治四十一年十二月三十日第三種郵便物認可

京城新報

人の一生は重荷を負ふて遠き道を行くが如し急ぐ可からず

發行所 京城新報社
仁川支局
東京支局

●歳末自觀（一）
夢涯浪客

（一）

今歳僅かに二旬を餘すのみ鳥兎匆々四十四年は正に去らんとす、今宵師走の寒月は凛々冴ねて聲つれにし我が病軀の窓を照らし未だしても今宵は多感多情輾た眠られぬ一夜哉。

一時二時三時も聽て近からなん一セコンドのチクタクの音は寂滅として更け行く寒き冬の夜にシンシンと微かに響きて恰も死の手に襲はれて吐く息つく息の体爲として絶ねんとする斷末魔の夫れにも似て巡々と身に染み萬感交々胸に迫れり月光は蒼々皎々と滑み渡り冷たき窓ガラスを影して寒夜の孤情月殊に淋しだ、月よ余は汝に多くの形見と多くの恨とを持つは奈何にかせん去れど月よ吾れは月汝自身をさこそ恨むものにはあらずして汝月に對して吾れは此の儚なしき苦しき多くの思ひ出の懷古を深く恨むものなりき鉄代の昔より幾セン－の太古より汝れは人住む此の下界を照して様々なる人事の變轉有爲を記憶する汝!!されば汝よ汝が過去なる記憶のページを操り返して變りにし我半生の歷史の糸をたどりては見給はずやア、如何に轉々たりし我身哉富の家庭に生れて月雪花の眺めすら何不足も無かりしが零落!!ア、慘ましき語や父が多年の政治熱は計らざりき家財の大半を傾け富は泡沫の旬に洩れず城下でも解くれば素の荒野原よ別けて兄弟無く姉妹なき孤たる吾れ骨肉の愛を知らず中學にありて既に早く父を喪ひ氣丈の母の手一つにて漸う稲門の文科を出でんとせし時痛ましや性來健ならざる吾れは遂に倒れて數月心臟を病む日頃の我が体質はよく此の病狀を堪へ得るの力もなく憐れや身は骨と皮とに痩せ果て、空しく大學病院の一室に輾轉されたりき。

（二）

此の時に於けるや余は病の苦痛より更に増して苦痛なりしは休學の苦痛なりし事を、朝に懶しく目覺めて昨宵も死にはせざりきと思ふ此の死の切迫を感ずるよりも我が心は寧ろ一刻も早く學に就きたきの一念に引占められつ焦躁りば焦躁るほど神經几猶病勢に連れて遂に再び起つ能はざるに至りぬ在院數月‼永劫なる『時』に比しては數月は一のパートに過ぎざれ共活動の氣に溢れ只管に希望にのみ突進せんとする靑年期に於ては衰頽に甘じて回顧に樂む老成期の十年二十年にも匹敵して心のみ逸りながら爲すことも無く身を褥上に横へて若き藥の香をのみ嗅ぐ其の寸刻の永さよ其の一日の永さよ況んや數日をや數月をや然れども余は靜かに思へり『歲月人を待たず』今夕にも明朝にも將た今の瞬間にも我を永劫の闇黒に攫み去る可き死の牛の影を窺かに心に感じて吁々、自ら省みて自ら愍みぬ余が母余が親戚余が友人苟くも識れるの人には死の陰影の信に滿てるは再び生きて大學病院を出でられはすまじと凝りて淚を灑ぐを惜しまざりき。

文苑

◎別離所感
平壤訴院檢事 秋場格太郎

廿歲不蜚還不鳴。官遊更向古韓京。
背世萍事鼻多味。鴻雁南時吾北行。

●悲情悲歌
夢涯生

昨日まで名にのみ聞きし箕子の世の古き都のあとをたつねん
人々の死をだにきけば哀愁ましぬ我が身の死さばあとの安けさ
死に降る我が此の頃の哀れさよいたつきの床に打臥してけり
孤雁鳴きて故國の空に飛び行きぬ鄕をたもひて淚さしぐむ
果てしなき此の天地の世をしのび『懷疑』『不安』に哲理をぞ思ふ
いざ早く行きて眠らんとぞ思ふ現世の『虛僞』と『浮游』の果てし無旅

俳句

題課 時雨、冬木立、鶯の鳴、紙衣、鰒の類。（二題四句吐（會員相互選一句點綴上座……逆列

●十五點之部

歌屑も張り交てあり反古紙衣　花亭
鰒止めて年は藥と云われけり　月宗
鰒を揩ふて袖に罰する紙衣かな　俳北
鰒喰ふて舍佛なんぞ申しけり　共樂
揩洩る星影さむし冬木立　一骨
山番の裸火洩れつふゆ木だち　雲水

●十六點之部

松は未だ若し幾世の冬木立　梅園
月宿す懷もなし冬木立　耳柿
昔き枠た鑑の傘や初時雨　醉仙
子に重荷持せて我は紙衣かな　一采
帶川の昔を偲ぶかみこかな　譜南
塵の世を遁れてかみき紙子哉　裏天
鳩の杖曳いて着輕き紙衣かな　白翁

外事一束

▲海牙 の阿片會議滿場一致を以て英國の決議を採用す即ち諸政府は各自右
▲決議 に基き各自有力なる法律を編成し原料の產出配分高を監督すべしと
▲蒙古 族五十餘名バイカル州に至り歸化を出願し露國官憲之れを許可せり
▲露國 滿洲及蒙古の動亂に關しニキチン大將に何事かを命じ其の結果大將
▲幕僚 を從へ任地イルクツクを發し下旬を以て哈爾賓に到着すべしと云ふ
▲土國 政府各派船に對してダーダネルス海峽の夜間通過を嚴禁せりと傳ふ

新年和歌募集
勅題「松上鶴」
選者九皐館去留

一、一人にて何首にても宜敷、用紙用箋は御隨意の事、但投詠者は住所氏名御明記の事
一、締切期限來る十二月二十日
一、發表は四十五年一月元旦の本紙上を以てす

右は例年の通り勅題和歌募集致候に付同好の御方は奮つて御投詠あらんことを

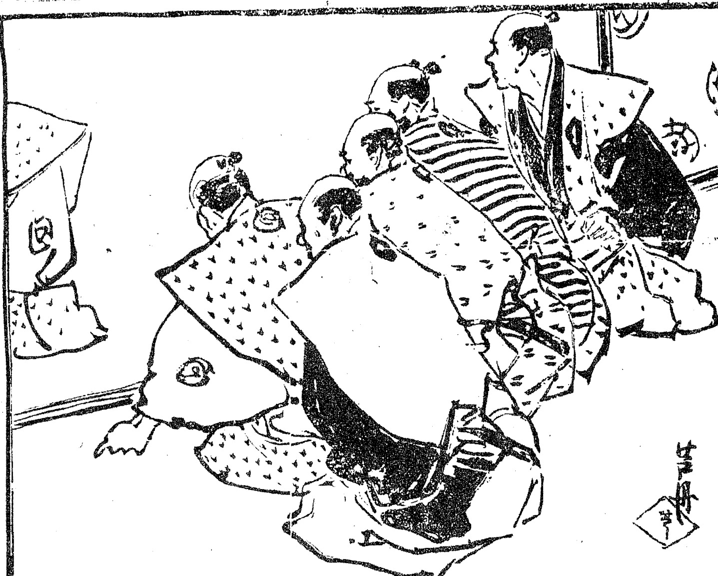
京城新報編輯局

▲伊軍 アインザラ占領は久しく伊軍の計劃せるトリポリ占領の第一着手也
▲華盛頓の米國平和會議席上にて島田三郎氏大統領タ氏と平和演說を試み
▲兩院 議員外交官諸教授大に感動し聽衆兩氏の日米平和條約締結說に贊す

梁川庄八
小金井蘆洲 演

第五十六回

庄八猶も言葉を繼ぎ 庄『併し拙者は其御町奉行寒川又右衛門の役宅に參りて豫め細け聞きたる次第もあれば、寒川又右衛門の召捕狀を以て追手に向つたとあらば、甘んじて縄を受けやう、首級も渡してやらう、然るに召捕狀を持來らず又政宗公の御下知狀をも持來らぬ所を見れば、正しく主水の指圖に依て、追手に參つた者であらう、サテ宮田兵庫是れでも尚ほ政宗公の御使者と、僞る舌の根あるか、拙者は固より汝等如き、鼠輩と斬合ふを好まぬに依り、先非後悔して此儘立歸るとあらば許して遣はそう、併し飽迄も拙者の首を所望と有ば、此村正の一刀を以て汝等四人の首を討つて後、筋目正しき捕吏の乃に首を渡して遣すであらう』一點の濁みもなく堂々云ひ詰められて、宮田兵庫グッキリ我が胸中を見破られて何と返答致す術もなく、差俯いて思案の体時に、望月大藏大音上げ 大『やあく庄八卑怯なり未練なり、汝は此場を逃れんが爲め、言葉を左右に託して、我等を踏着せんとするか、善惡は姑く措き汝微祿の身分をも顧みず、臣に主君家庭周防を討取たに詫びおるまい』庄『云ふにや及ぶ』大『然らば主君の御首を擧げ、主君の御壽命を縮めたるは、不義無道、汝を眼前に見ながら、何とて此儘歸國たるべきや、善惡邪正は敢て問ふ所にあらず、臣として主の仇を討は順道なり、いざ尋常に勝負せよ、汝果して我等四人を斬棄つる勇あらば斬棄よ、我等も亦此儘汝を助くることは相成らぬぞ、卑怯未練の事を吐さずと潔く尋常に勝負せよ』と息卷荒く呼はれば、南八郎、内山幸吉、杉浦要助も亦同音に、口角泡を飛ばして罵つたり、庄八は此有様を見て眉に皺寄せ思はず溜息を洩しました、と云ふのは此四人の者を斬つ棄てるは、最と易きことでございますが、斯る雜兵原を相手に決闘をした處が勝て功名にもならず、又追手に向つたとは云ひながら、素と罪のない者でありますから、實は殺すに忍びないけれども、身の程知らぬ滿庭の雜兵假りにも他國の家老の面前に於て、濫言を申したからは其儘棄置く譯にも行かぬ今は引退ならぬ事よと諦めて面色正しく 庄『宜しい望みに任せて決闘して遣はそう』と聞て望月大藏は 大『鳥滸閒敷奴なやわい』と呵々と冷笑ひたる其面憎さ、飛んで火に入る夏の蟲とは斯る徒を云ふのであります、此時庄八は威儀を繕ひ少しく愁容を帶びて、家老の流山將監に向ひ 庄『只今お聞及びの通り、全く彼等は筋目正しき捕吏にあらぬゆゑ、其次第を申聞け歸國して、更に出直すやう心付けましたが忠言耳に入らず、強て決闘を致さんとの望み、就ては御場所を拜借致し、日取を定めて我々共に、決闘仰付け下さるやう願ひたい』將『尤もの儀にて候、併し主人へも言上致さねば相成らぬゆゑ、只今即刻と申す譯には參らぬ、追て御沙汰に及ぶであらうから、各々方今日はお引取下さるよう』と立戻る、一體將監が斯の如き、取計ひを致すと云ふのは全く彼等は伊達政宗の使者と云ふ、名義が有る故でござります、將監は早速君公の御前に伺候して委細に右の次第を申上ると、安房守も 安『最早是非に及ばん早々決闘を致させよ』との仰せ、愈々本月廿三日を期して、房州白濱海岸に於て決闘と云ふ事に決まつた、其評判がパッと世間に擴まりましたから、決闘の當日は近鄕近在から、我も〱見物に出掛けて、左しも廣き白濱の海岸も、人を以て埋める位に相成ました、場所は廿四間四方に繩張を致して、其内外に數多の足輕が嚴重に警固を致し、又城内より檢視として出役を致したのが、流山將監初め正木岩瀬里見の諸老臣、又郡奉行の役々が出張して、何れも威儀を繕い床几に掛つて居ります、仙臺から付添て參りました、宮田兵庫は檢分の役で御座りますから、是又床几に掛つて居ります、扨四人の者共は、襷鉢卷をなして甲斐〱しく支度をなして立出でました、是に引換へ梁川庄八は、素肌同樣肌着も付けず、一枚の上着を着て、其上に襷をかけ腹帶を堅と締め、髮を撫いて現はれました、庄八も固より斯る雜兵原を對手に斬合を致すことは好まぬ事でございますから、如何にも沈み勝ちなる容貌、靜々と設けの席に進み出でました。



東京電報

●驅逐艦の進水　排水量六百噸の驅逐艦さくら號は二十日舞鶴軍港にて進水式を擧ぐ

●選擧法改正委員會　十四日午前内務省に於て選擧法改正調査委員會を開き原内相は一場の訓示演說をなせり

●正定官革衝突　漢口　松村總領事發公電によれば正定方面にあり官軍は數日來行動を開始し石家莊方面に進み革命軍は退却し兩軍の間に小衝突ありたり

北京特電

●西安府の大虐殺　陝西　西安府に於ける虐殺は其後益々甚だしく滿人の難に遭ふもの八千外國人十六名（日本人は無事）に達し事態頗る重大なるを以て北京の外交團は袁世凱に對し救濟方に盡力を請へり

●黎宗岡北上　津浦鐵道の南端は既に安徽革命軍の占領する所となり安徽都督黎宗岡は大軍を率ゐて北上の途に上れり

●安徽軍優勢　安徽革命軍步兵三營砲兵二營は河南省陳州府鳳陽より北上し周家口を占領し進んで沙河の北岸に取り水陸並び進み京漢線を破壞せんとするの報達し人心恟々たり

●漢人禁衛指揮　禁衛軍指揮權は悉皆漢人の手に移され清貴族は解職せり

●郵政總局長任命　梁士詒は郵傳部郵政總局長に葉恭綽は鐵路總局長に夫々任命せらる

●媾和商況一變　革命黨の領袖連は講和に關し依然強硬なる意見を抱持し之れに反し袁世凱は和議の結果に多大の望を屬し商況一變の徴を現はし來れり

上海電報

●唐紹怡出發　北京政府の媾和使唐紹怡は黎元洪と會見の結果愈々上海を媾和會議場と定め十三日上海に向け漢口より出發せり

●談判場變更理由　媾和談判場を上海に移したるに就ては先づ官軍側の媾和使唐紹怡の一行漢口に着するや革軍側より伍廷芳温宗堯を全權に任命し派遣し黎は依然武昌にあり而して南京の黃興と講和條件に關する打合を爲す順序を採るに至り黎元洪より伍廷芳一行を招きしに伍は戰地に於ける會議を不利なりとし且つ從來上海に在りて英國領事が仲裁の勞を執れるに鑑み上海英國領事を通じ漢口英國領事に交渉せしめ盡力を乞ひ同領事の斡旋により唐の上海行となりしものなりと革軍側の電報ありたり

●武昌革軍兵力　武昌の革命軍は大部分を城外に移し黎元洪は目下衡山に總司令部を置き全軍を督し又黎の親衛兵は一時離散せるもの尠からず目下將士は一萬八千に達せり尚ほ南京を攻擊せる鎭江軍を督せる林述慶は江蘇浙江各地の兵を集め東軍を組織しマキシム砲及……を有すと云ふ

●革軍領袖反目　程德全徐紹楨は全軍を率ゐて武昌に向ひ林述慶は鎭江に在りて北上の策を立て兩人共自個の位置を爭ひ南京にありて相反目し何時衝突するやも計られず

群山電報

●燒失と監督不行屆　群山　日韓新報社の全部を燒失せしのみならず隣家數戸に延燒し其の原因監督者の不行屆に付同港民は同社に對し物議を醸しつゝあり

●鴨江開閉橋成績　鴨綠江大架橋に於ける開閉の成績如何に就ては一部少數者間に在つては多少の疑念を挾むものなきにしもあらざりしが開閉以來今日迄は何等の故障なく頗る好成績を示しつゝあり併し世人の憂慮する所は例によれば鴨綠江の水は結氷すべき時期に入りしを以て本月內には結氷と共に一時中止に至るべければ充分なる實驗を經たるものにあらずんば不可能なるべく其成績如何を斷言し難しと雖も從來の經驗ながら從來者の杞憂しつゝありし如くにはあらざるべしと思はれて無之を信ずれり

●鮮塩密輸協定　結氷期に入り鴨綠江上流國境地方清國領域は淸國官鹽騰貴したるより同地方に朝鮮鹽の氷上密輸を爲すものありとて其筋にて淸國官憲と交渉の結果今後朝鮮鹽にして淸國領域に入らんとするものは沒收せらるゝこと此程協定成立せる旨其筋に通牒ありたり

●日本横斷航路と商議　日本海横斷航路開始問題は淸津元山等の有志屢々提唱し內地に在りては敦賀、舞鶴等の各港等又其直航路開始を希望し議會にも請願可決したる次第なりしが何分各港とも直通航路の開始を首唱するを以て自然競爭の姿となりしため今日まで成立を見ざりしが今回金澤商業會議所より目下東京に開催しつゝある全國商業會議所聯合會に向つて舞鶴、敦賀、七尾、伏木と淸津、城津、元山各港間に於て循環航路を開始せん事を提出したるが數日前同聯合會に於て審議の結果本年京城に開催せし際の議題にてもあり又濟會鐵道急設案とも關聯するを以て最も適當と認め滿場一致にて可決し實行委員の手に於て方法等を當局に建議する筈に決定せりと云ふ

●土地調査整理狀況　京畿道轄　川郡內は既に整理濟となり一筆地實地調査、帳簿の作成を完了し地方土地調査會の審議に附すべく原案と共に同調査委員會へ回付せり尚北大邱府同金浦、京畿道通信浦、果川郡、始興郡の整理を急ぎつゝあり

●道路改修狀況　從來朝鮮に於ける道路は殆んど荒廢に歸し路面は狹隘にして凸凹曲折多く又河川には概して橋梁の架設なく僅かに日露の戰役の結果により京城、義州、仁川、元山方面に達する三線路は或る局所を除くの外辛ふじて車輛を通ふし得る筈にて其外は眞に車道として見るべきは殆んど皆無と云ふも過言にあらざるの狀況なり從て物資の運搬は人肩による等凡て不便不利を感じつゝあるのみならず行政上諸種の施設を阻害し人文の進步產業の發達は得て望むべからざる狀態に在りしが去る三十九年舊韓國政府は統監指導の下に內地より技師を招聘して之れが改善を企圖し朝鮮全道を通じて先づ樞要なる路線より始め順次施行計畫を立て三十九年度より四十三年度に亘り前後併せて三百七十萬餘圓の工費豫算を以て工事に着手し爾來之れが竣成に力めたるが四十三年八月日韓合併行はれて以來其の未成工事は總督府に於て繼續施行し今や其の計畫の全部は殆んど完成を見るの域に達せりと

●無煙炭脈調査　農商工部にては豫て平壤に於ける無煙炭の鑛脈及び鑛量並に今後幾ヶ年間採掘に堪ふるや否やの點に就き川崎技師を派し調査せしめつゝありしが其の結果現在のところにては不明なるも採掘の進行するにつれ來年末頃にいたらば稍判明すべしとの事なり

●勸業模範場增設說　明年度に於ける產業の發展に資する方針にて總督府豫算中には商品陳列館の擴張中央試驗場の所設各道府郡に勸業上の技術員を增設する等の項目ある由なるが右議會通過の上は水原及平壤に設置しある勸業模範場の如き農事發展の機關を大邱及其他の地に三三增設さるべしと云ふ

●稅關支署變更　豫て度支部に於て調査中なりし馬山稅關支署外六ヶ所に於ける稅關の名稱及管轄區域は十四日變更發表されて來る四十五年一月十五日より之れを實施することゝなれり

●專修學校の近況　既報元法律學校は學制改正法により專修學校と改稱さるゝと同時に野澤校長加古敎授は廢官となり關屋學務局長校長を兼ね更に茂田某氏此程敎授として就任したるが關屋局長は直接敎鞭を執らざるも一週二三回學校に臨み校務を總攬する傍生徒に對して精神修養上の講話を爲し生徒も亦氏の德望を仰ぎつゝありといふ尚ほ本年度は從來の關係上法學校時代の方針に依り來年度より新學制法に則り從つて學科も多少變更さるべしとのことなり

●煙草耕作資金供給　朝鮮各道に於ける煙草耕作の改良等は當局の鋭意從事する處なるが明年度に於ては各地の生產地に於て十分に耕作を獎勵する筈にて其耕作資金の供給等に關しては農工銀行及各金融組合より出來得べきだけ便宜資金貸與の方法を斡旋すべしといふ

●鹽田工事の殘務　廣梁灣に於ける天日製鹽の工事は本年度內に於て全部終了の事既報の如くなるが大部は豫定の如く竣成し僅かに四、六、八の三區の仕上工事のみ僅かに殘留し居るのみにて之れとても明春に至らば十分に終了すべく茲に三年餘を費したる大工事も無事終了の筈なりと云ふ

●前田正名氏入京　貴族院議員前田正名氏は十五日午前〇時二十分南大門驛着直通列車にて入京の旨其の筋に通報ありたり

●歲末と質屋業　當地質營業者の談に依れば前月の年末狀況に就き聞く所に依れば前月は入質七分受質三分の割合なりしものが當月に入りてよりは入質六分受質四分強に至り其の割合例年の同期に比し甚だしき變りなく尚ほ受質割合增加の模樣あり又た受質者に就て見れば其の多くは下級勞働者にして官吏側は至つて少きが如くにして氣候の比較的寒冷ならざる爲め諸工事等の間は繼續し得らるゝものあり下級社會は却つて一般に金融緩漫なるが如しと

●前田正名氏歡迎　曩に世界商工業狀況視察の爲外遊したる前田正名氏十五日夜歐洲より歸朝の途次當地に立寄るべきを以て當地民團商業會議所及經濟協會は聯合して同氏の歡迎會を開き且つ一場の視察談を請ふことゝなすべしと云ふ

●京城の小包郵便物　京城郵便局の取扱ひになれる小包郵便物は昨年度に於て總計百二十四萬圓なりしが本年は二百萬圓以上に達すべく其在中品の主なるものは支那絹織物なるが過般來清國動亂のため一時輸入減少したるも昨今に及びて又々增加せり而して京城の輸出入總額中に於て小包郵便物は總額の五分の一に當りしが今年は四分の一に增加せりと云ふ

●質屋組合の申合せ　既報の如く利息制限法發布の結果當地質屋組合員は過日總會を開き質物利率引下げに就き種々協議するところあり其後從來は一圓迄一割十圓迄七分五厘百圓迄五分百圓以上三分五厘の利率なりしを一圓迄七分五厘十圓迄五分三十圓迄三分五厘五十圓迄二分五厘百圓以上は利息制限法の規定するところに依り利率を引下ぐることゝなり其の契約期限の如きも從來は二ヶ月なりしを三ヶ月とし近く警務總監部の認可を得組合一般に實行することに內定し居れりと

●測量部分引揚　三角測量は冬期器械凍結して使用不充分の爲め已むなく來る二十日を以て本年三角測量の一段落として夫々各班に引揚を命じたるも一筆地測量は土地凍結して圖根測量の抗木打込みに困難なるも推して續行すべし

●渡邊法院長談　臺灣の司法制度を視察し此程歸任せし渡邊高等法院長の往訪記者に語る所左の如し

視察區域は臺北、臺中、臺南の三地方法院所在地を始めとして臺北地方法院出張所所在地たる宜蘭及び打狗に涉り其間日數を費すこと約一ヶ月であつて北部地方は恰も雨季に當るのださうだが幸いにも一行視察中は殆ど降雨なく大に視察の便宜を得た、一行の驚いたのは氣候の相違、各種の熱帶植物が所在に繁茂し彼のウーロン茶の如きは二番茶を摘みとるのであつた、臺灣と朝鮮との法制の比較かね、例へば同じ刑法にしてからが日本內地は條文朝鮮は制令臺灣は律令に依つて行はれて居るので殆ど別種のものを用ひて居ると稱して可なりであるし或は全然內容の異るものもあり、裁判制度も人の知る如く地方法院の上は覆審法院があるのみの所謂覆審制度であるし彼我の比較對照といつても然う一朝一夕に述べ盡し難く未だ歸任早々の際で意見も取り止めたものがない只痛切に感じたのは氣候の極めて惡い土地だといふことである

●忠北の煙草改良　忠清北道清安郡に於ては近時大に煙草耕作の改良に留意し兼て勤儉貯蓄の美風を涵養せん目的にて一の煙草耕作組合を組織せり其の規約によれば本組合は同郡內に居住する煙草耕作者を網羅すべきも當分の內東面及南面の耕作者を以て組織し組合の總理には淸安郡守を推薦し組合長及幹事長は組合員中より撰擧すと

●仁川民會議事　仁川民會は既報の如く十三日午後四時より開會出席議員は山下村谷高田稻田加藤藤村川添平山淺井入田樋口美濃谷の十二氏議案明治四十四年度追加豫算中三千圓民團起債の件は其筋より不認可の結果歲出臨時部より校具新設費金四千圓を一千圓に修正の件を其筋に向け認可申請中の處此分は認可となりし旨民長より報告し（一）各國居留地埋立地賣却一時中止の件（二）尋常小學校改築設備費金一萬六千圓を限り民團債を起すの件（三）明治四十四年度追加豫算の件等原案通可決六時半閉會議員一同は淺岡樓にて忘年會を催ふせり

●十二月中仁川漁況　本邦よりの出漁船は何れも漁業を停止し歸國せしに付漁撈寂寞を極む於青島附近の鰮製造業も全部終了を告け仁川港內の漁は近々漁期に向ひしも未た斯業に從事する者なく唯秦安郡方面に鮮人の黑鯛海鰻等を少しく漁獲するあるのみなりといふ

●李王德壽宮御成　昌德宮李王殿下には十五日午前十一時御出門德壽宮に成らせられ年末の挨拶を述べられそれより李太王殿下と午餐を共にせられ午後二時歸宮せらるゝ筈なり

●宮尾拓殖局部長の入京　拓殖局部長宮尾舜治氏は十四日午後八時十分南大門驛着入京すべし

●深水副會頭の歸城　東上中なりし深水商議副會頭は十四日夜南大門着歸城

●土地賣買の解禁　太田木浦間鐵道用地に當る各坊面內に在る土地地上物件の賣買典質及家屋增築等從來禁止され居たるが明十五日より木浦府の一部及羅州郡の一部右解禁されたり

●角田副官着任期　今回憲兵司令部副官に命ぜられたる角田少佐は十六日頃着任すべしと

●韓海漁業總會　同會社は來る廿四日午後二時より地學協會に於て臨時株主總會を開き左の事項を附議する由
一、資本金二百萬圓の內五十萬圓を減資する件
一、定款第六條を改正の件

●朝鮮煙草支店設期　朝鮮煙草株式會社は既に成立したるも朝鮮に支店を設置するに關し未だ當局に何等出願せざる由なるが聞く處によれば朝鮮支店に常務として在任すべき重役等は營業上萬般の設備を東京に於て整へたる上來鮮する筈にして多分其支店設置の願書提出も明春頃なるべしと云ふ

●鮮商金融機關不利用　昨今朝鮮人間に沸々產業熱の興れると共に朝鮮人の資本家にして各種の事業に手を出す者漸く多きを見るは洵に慶すべき事なるも何分經濟的思想の幼稚なることゝて其事業の經營法や資金の運轉法などは全く文明的軌道に外れ、拙劣さ加減驚くの外なし併し開城地方の鮮人商業家は流石に古來よりの商業地に人となりしだけ數理上の觀念等に富んで居り、從つて產業上金融機關たる銀行を利用して、現に之れが爲產を成せしもの往々あれど其他に至りては、當京城を始め各地一般鮮人商家は悉く銀行なるもの、性質及び利用法等に至つては一も之を解するものなく殊に昨今當京城の鮮人資產家中には、朝鮮米價の昂騰せるに顧み、從來斯業に些の經驗を有せざる者まで盛んに米產地に向け米穀の買出に出掛るもの多きが、其買出法の極めて放漫なる、一面から云へば大膽と云ふを得んも、唯目前の利益をのみ打算し、諸掛費即ち銀行利子倉敷料等との關係に思ひ到らず、銀行業者が如何に警告を加ふるも之に耳を假さゞるが如きは如何に經濟思想の幼稚なるかをトするに足ると漢湖農工銀行當局者は語れり

●朝鮮通信社の官民招宴　朝鮮通信社にては來る十六日午後五時より靜養軒に於て晩餐會を開き多數の官民有志を招待する由なり

●總監新任試補招宴　山縣政務總監は新任試補十八名を十八日午後四時其官邸に招き晩餐を供する由

●臺灣會の宮尾氏歡迎　入京すべき宮尾拓殖局部長は久しく臺灣にあり當地にても在臺當時の知人少なからざるを以て臺灣會にては同氏の歡迎會をなすべく目下計畫中なりと云ふ

●土屋土地測量課長歸任　此程大邱方面小三角一筆地圖根測量狀況視察中なりし土屋測量課長は十三日夜歸任せり

●鹿兒島縣人會　別項の如く前田正名氏入京を機とし鹿兒島縣人は同氏の歡迎會を兼ね縣人會を開く由なり

●保安林の新編入　全羅北道鎭安郡上道面梧桐里在山林保安林に編入せらる

公人私人

▲小林愁（日本銀行技師）十三日天眞樓
▲柴田良之助（辯護士）十三日釜山行
▲笠岡增次郎（憲兵少佐）十三日大邱行
▲水野悅造（春川慈惠院長）同日春川行

▲京城手形交換高
十二月十四日　二二五、二三五、二一〇　五三七

▲治外法權▼

花山森林で、第二の莞島事件が起らなかつたのは、勿怪の幸、兎角塊糖には蟻がタカリたがるので困る▲トコロで今後花山森林の經營をドウすれば良いかと云ふに、夫れは勿論保存の目的を以て李王職が自身經營の任に當るか、而らざれば林學林業に明るい者に其經營を托するのだ▲水原と云へば直ぐ眼と鼻の間、ソコで田島なんぞと云ふ我利我利が、大膽にも國有の森林を喰に掛つたのは、近頃奇怪千萬の話であるが、ソレにしても總督政治もあまりに目が屆かなさ過ぎる▲當地取引所の發企者連が愈々取引所設置の請願をすると云ふが、果して認可になれば良いか、聞く總督府の意見は尚早、發企者側の意見は非尚早、ソコで愈々願書が出されたとなれば、尚早と非尚早とが火花を散らさねばならぬ▲取引所と云へば、此頃は米豆取引所の改良論が或一部に起つて居る、ソコで改良論者は謂ふ、仲買人の呑行爲は不正にして不都合だ、法律は嚴重に彼等の呑行爲を取締らざるべからずと▲迂濶々々、仲買が玉を呑のは客が追證據金を滿足に出さないが爲だ、で、若しも客にして追證據を滿足に出さんか、如何に愚にして惡黨な仲買でも呑行爲を敢てする譯はないのだ▲取引所を會員組織にして、仲買人の要らぬ樣にせねばならぬ、只だ彼等の呑行爲だけを取締らんとしても、組織が今の儘では、徒らに罪人を多く作るばかりだ▲中央新聞は遂かに現內閣の機關紙だけあつて、言論の自由を唱へて居る、世人も知る如く、西園寺總理は元と東洋自由新聞の主筆、原內相は報知の記者と大阪每日の社長を勸めた人、言論の自由に付いて官僚派と全然見を異にするのも尤の譯だ▲聞くところに因れば最近寺內總督は、大隈伯や西園寺公から、半島統治に關し有益な忠告を受けたそうだ、で、寺內も根が悧巧な人だから、先輩の忠告を聽いて、ソレが判かつたとすれば、今後は統治上に面目一新と出掛けるであらうよ。

雜報

●清國動亂と京城 影響(一)

…九日現在度々部調査…

△輸出入貨物に及ぼす影響　當地より清國に輸出するものは安東縣及大連に向け僅少の牛皮あるのみにして目下影響と認むべきものなし

清國よりの輸入貨物は暴動發生以來著しく其額を減し小包郵便によるものを除けば當地某内地商が其の上海代理店をして十月下旬鎭江に於て買入れたる絹布七千餘圓を十一月中旬輸入したるを最後とし上海に於ける集荷少なく且つ他方買出しは當分の内不可能の狀態に在る模樣なれば貨物としての輸入は向後も或は減少を示すべきが次に小包郵便により清商輸入に係るものは絹布を主とし馬尾毛皮等從來毎旬多きは五萬圓少なきも一萬圓以上に達せしが十月下旬及十一月上旬に於て一時非常に其額を減じたりしも去月下旬に及んで再其額を增加し來れり如斯普通貨物の減少せる一面に於て小包郵便による絹布輸入額の增加したり上海に於て中繼輸入せられたる洋金巾は毎月平均二三萬圓に達し殊に目下季節多數の輸入あるべき筈なるも十月下旬後は輸入杜絶の狀況に在り

△移出入貨物に及ぼす影響　内地より清國に輸出せらるべき綿糸及燐寸は暴動の爲め不齡滯貨を生じ砂糖も亦一萬俵以上の破約品を生じたる由なるも綿糸は清國向としては二十、二十四手を主とし當地移入は十六手を主とし釜山方面は十手にして其他の番手の移入は僅少に屬するを以て清國向製品を直ちに朝鮮に仕向ける能はざるも向後に於ては自然當地に販路を求めて其の移入增加すべし然れども目下先安を氣構へ賣行不振の折柄なれば未だ格別の移入を見るに至らず燐寸は清國向としては黃燐赤玉にして數年前清國向の粗惡赤玉を當地に販賣し非常の失敗を演じたることあり鮮人向には赤玉の賣行不良にして僅に群山方面に僅少の移入ありしのみなれば是亦た清國向製品を此際朝鮮に仕向くること能はざるべく商況も綿糸同樣先安見込にて賣行き捗々しからず砂糖に至つては元來品薄の折なるを以て清國の破約品の如き殆んど意に介せざるが如く品によりては三十錢以上の騰貴をまし向ほ强含なれば何等の影響を蒙むらざるべし

俳句

◎仁川俳壇卯月會句拾帶輯(二)

◎十七點之部
松杉は鳥の塒や冬木立　是空
禿山に霜の楷打つしぐれかな　踏南
錦には此輕味なし澁かみこ　柳門
釜音に聞く松風や小夜時雨　金雅
破れ紙子既往の夢を語りけり　海南
柚小屋も白地なり冬木立　折中
浮世の贅仕盡した果紙衣かな　柳好

◎十八點之部
鴬子鳴や往來稀なる籔つゞき　松園
松原は霽れて高嶺のしぐれ哉　色葉
温泉脈通す熊笹道や鴬子鳴す　凌霜
時雨るゝや傘翳た人さゝぬ人　哲舟
時雨るや酒屋の軒の小荷馱馬　梅華
山莊の晝寂さして鴬子鳴す　竹窓

◎十九點之部
鰒提て井戸覗く子を呵りけり　一盃
鐵鍱とこして鰒好きの余勇哉　醉仙
鴬一羽追れて來たり夕時雨　梅園
海山の景色隔てる時雨かな　叢亭
鴬子鳴や數寄屋を圍ふ小柴垣　一樹
鰒に似し忍び彼や河豚汁　是空

◎二十點之部
芙蓉峰は霽れて麓の時雨かな　竹窓
亡き父の手紙懷かし反古紙衣　柳好

◎廿一點之部
下馬札の杢目も痩て冬木立　宗壽
暮るゝ德は名にあり澁紙子　凌霜
物知りと云れて知らず鰒の味　俳北
駈者を凌ぐ紙衣の人の氣焔哉　菊樂

◎廿二點之部
北嵯峨や鴬子鳴く籔の處々　裏天
借り傘に日の映かゝる時雨哉　聽雨
粧ひし姿も何日歟冬木立　哲舟
順禮の悲しき歌や時雨るゝ戸　松都

◎廿三點之部
河豚汁と聞て坐を立つ孝子哉　竹賀
小夜時雨坐禪の耳に障りけり　一滴
殘る葉の二つ三つ四つ冬木立　哲舟
遠くから來た雲でなし初時雨　吼月
河豚の座に横顏一人眼立けり　無柾

◎廿四點之部
何神を祭る祠らぞ冬木立　醉仙
山寮の晝間さし鴬子鳴す　山岳
松風の絕へ間〳〵や小夜時雨　月宗
鰒の座に魚油點す灯の仄明り　枯柳

◎廿六點之部
持た子は皆人にして紙衣かな　俳北

◎廿七點之部
時雨るゝや片濡のする松の幹　是空
須磨明石かわる〳〵に時雨見　淇水

掛茶屋の殘骸晒し冬木立　竹香

◎廿八點之部
是が皆花ぞ芳野の冬木立　一否

◎廿九點之部
椎の木に親しむ音や初時雨　白翁

◎卅一點之部
金婚の人健にして紙子かな　一酒

◎卅二點之部
歌仙卷く莚は更けて小夜時雨　菊樂

◎卅三點之部
神垣や濟め稈降る朝しぐれ　俳北

◎卅四點之部
(人)○木立雷裂の杉眼立ち鳧　里石

◎四十九點之部
(地)刎墨の汚れも雅也古紙子　瓢月
(天)一時雨通して松の雫かな　竹窓

◎新荷着
静香園 茶

▲銘茶、鰹節、小京海苔
右新製品卸小賣共大勉強可仕候間御注文願上候
卸小賣商 仁川宮町 青島商店 電話七〇八番 振替京城六〇番

（正價表御申越次第進呈）
銃砲火藥類直段特別割引可仕候
共 共榮社小賣部 仁川本町三丁目（電話七五一番）

弦齋流割烹
す津祢
南山町一丁目 電話五百二番

特約販賣品目
舶來ピアノ、オルガン
西川ピアノ、オルガン
辻ピアノ、オルガン
鈴木ヴァイオリン、鈴琴
洋樂器各種
定價表御入用の方へは進呈仕候
京城永樂町一丁目赤門前 西村樂器店

磨擦白米
龍山精米所

東京府下土浦及京城品評會一等賞金牌 乳牛料牛
洋種乳牛及朝鮮牛賣買
牛皮牛骨の賣買
入院隨意 京城家畜病院
種豚山羊家禽種卵賣買
多木肥料販賣代理店
京城古市町九番戸
朝鮮畜産株式會社
電話八八番

比較ハ最良ノ選擇法ナリ
優等清酒 櫻正宗
醸造元攝津灘 山邑太左衛門
醸造高貳萬余石
京城明治町一丁目（漢城病院前）
山邑京城支店 電話八四九番 振替貯金京城七五番
市内到ル所販賣店有之候ニ付櫻正宗ト御指定御買上被下度候

舌代
時勢の推移に促されて賓來の所謂料理店風なるものをカラリと打捨て玆に面目を改め日々の色と差上御客様方の御好みに應じ一品にても差上申べく候間年末年始の御宴會は素より仕出し等萬端總て「アッアケ」式を以て大勉强可仕候間倚倚の御愛顧の程伏て奉願上候
會席御料理
ありあけ
新鮮の魚類を以て調理したる弊樓獨得の珍味の逸品に御座候
京城壽町二丁目 有明樓 電話七三八番

効能ある温泉
鐵冷温泉
旅館並に浴客席貸
京城長谷川町一丁目（朝鮮銀行北横手）
廣安喜次郎 電話一四一一番

最上醬油
髙
醸造元
仁川港萬石町
髙杉醬油醸造場
電話七六五番

木綿、太物、メリヤス、綿、文房具、紙、帳簿類、干物、食料品、鑵詰、荒物、金物、洋傘、日鮮人向雜貨
帝國化粧品研究所 明月あらい粉代理店
朝鮮仁川港
卸商 ヨ 小林倉二郎商店
電話三六六番 振替口座京城一九九番

◎誠ハ弊店ノ主義也

登録商標
醸造元
仁川港宮町三丁目
深見勝三郎
電話二四八番 電信略號（ヲ）

優等清酒
醸造販賣元
仁川港
吉金酒店
（電話七六四番）

M.C.C.
土耳古巻紙
エムシーシー
專賣局定價は百本に付金九圓貳拾錢なるも朝鮮内は大安賣
京城、平壌、亀屋……釜山、木浦、群山 髙瀬支店

弊館には夜警の設備有り
陸軍指定旅館
鐵道院指定旅館
仁川水産組合指定旅館
各保險會社指定旅館
眺望の好き事仁川第一なり
御客様の安全此の上なし
海岸 旭屋旅館
電話二五一

酒精アルコール
直輸入元
仁川花町一丁目（電話六五〇番）（電略ナ）振替口座京城五八二
坂倉支店

歯科診療
京城本町二丁目三越呉服店前
野田歯科醫院
仁川仲町三丁目末永呉服店隣
野田歯科醫院分院

紙と印刷
諸紙
和洋帳簿
印刷
各種製本
諸官衙御用
京城本町六丁目
播本商店
電話百拾番

文房具
和洋紙
度量衡器
日本政府檢定濟
度量衡器特許輸入販賣所
シノサキ本店
京城本町一丁目（郵便局前）
電話七百五番 電話長六四八番 振替口座朝鮮一五四番

新荷着
厚物、薄物
浪板、平板
鐵板各種
各種亜用線
和洋金物商
彦 佐野彦藏商店
京城本町二丁目
電話一六三番 振替口座京城一二〇番

◎夜間診察は九時迄とす
◎肺結核及結核性疾患の最新注射は實費診療す
△六〇六號注射需に應す
仁川病院 電話十六番

京城光化門通
淺田洋服店
店主 大島專藏
（電話四百十二番）

薄口醬油
や
特約販賣
仁川 髙雄
京城支店

東京流納豆大安賣

特製
寶味噌
御料理向

味噌製造 漬物問屋
たからや
仁川本町三丁目
電話七三七番

商標
コ味噌
京城南大門通二丁目
製造元 遠藤廣吉商店
（電話九八二番）

本場精撰
茶

右銘茶各種新物續々入荷に付御小賣にも大勉强仕候間多少に不拘御用命願上候
仁川本町四丁目（局前通）
田中芳春園
電話四五〇番 振替京城一二〇二番

高島易斷
旭町一丁目御嶽教
大講義 山の内

キ 瀛船出帆廣告
十二月十六日前十時 商島行 三省丸
十二月十六日前十一時 海州行 大草丸
十二月十六日前一時 屯串行 海州行 成歡丸
十二月十五日前九時 海州行 安東丸
十二月日前十時 大湖芝行 三省丸
仁川本町四丁目 電話一七三番
合資會社 秋田商會船舶部
仁川本町一丁目 電話七五〇番
秋田商會船舶部荷扱部
仁川本町海岸通 電話四一九番

荷客取扱所
柴田回漕店
山本回漕店
仁川本町四丁目 電話五二二番

掲示

本職所管ノ森林内ニ於テ左ノ行爲ヲナスコトヲ禁止ス
一、樹木ヲ盜伐スルコト
一、落葉、下草、蔓木類、樹皮、樹實、菌類、土石等ヲ採取スルコト
一、火災ノ原因タル處爲ヲナスコト
一、標識ヲ移轉シ又ハ毀損スルコト
以上
明治四十四年十一月 李王職

國寶「花山森林」を視る（四）

天眞生

掻き殘されたる落葉、刈り殘されたる下草の叢に乾けるを踏んで逶迤たるを辿る、吾が二面子に依りて既に林相や拂下說の因つて起りたる所以は說明し盡された、然れば吾は重複すべきを避けて筆を雜觀の方に向けよう、入ること五六十歩にして既に其所此所に枯損木なるもの、斫り倒されたるを見る、檢するに朽ち蝕めるもあれど多くは朽蝕まれん虞れある損木ー例之樹身の半樹皮の剝落ちたる樹頂の風に折られたるが多くして枯木は一本も無く悉く損木に過ぎず深く入るに從ふて愈々然うである、此所で考へねばならぬ事は此花山森林を風致林として置くか又は此から物質的利益を生み出させるものとするかと云ふ根本問題である、風致林として保存するとならば保存費の幾分を支出する位でなければならぬ隨つて絕對的に愼愼つて枯損せんかとの疑ひある樹木を迄斫り倒すには及ばぬのだ現在枯損木として斫られたるを驗るに殆んど疑ひあるものゝみで**實際**の

枯損木と見るものは一割位であると斷言する、然らば其疑ひあるもの、立てる位置が通氣に妨害あるまでに密生せる所かと云ふに左樣でない、掲示には落葉、下草を採取するなとあるが實際は**採取**せられたる

落葉下草は花山麓に點在する農家の廣庭や附近森林中に山と積まれたるが散在して居る彼樣に掻き寄せて終つては土地が瘠せはせぬかと迄に採取されてある、樹皮も樹實も同樣であらう、一百三十四號と樹皮を削りて記されたるクヌギの所謂枯損木が伐り倒されたるまゝなる傍には廿年も前に朽ちた槐か樅かの二抱へもあるのが御免蒙つて立つて居る、莊子の所謂無爲にして而して天命を全うせるものか、百七十二、三と記號された切株の生々しきには吉田と書かれてある其附近に**石を疊んで火を焚いた**

跡がある、此は樵夫の湯を沸かし暖を取つた者であらう、此から先き寒い時候に成つたら愈々此は免れまい、掲示には火災の原因たる所爲をなすなど書かれてあるのだが、言ふ所の火災の原因とは下草落葉に火を放つことをのみ云ふのか、お氣には入るまいが一言申し上げる、全体に官吏、就中法律的の頭腦の方は『**爲す可らず**』を**金**

科玉條として居て何でも彼でも惡い事は『爲す可らず』と書いて發布して濟して居る僻がある、而して凡ての好ましからぬ所爲が其爲す可らずで爲されずに居るとは信じて居ない、否、爲す可らずの所爲は乾度爲されて居ると信じて居るのだが爲す可らずに信賴して他に防止の手段は執らぬ此れを以て其人に詰れば曰く『**其以上**は**犯罪**になるから**警察の方**に**屬する**』と斯うである、閔長官も小宮次官も乾度左樣信じて居られると信ずるが果して左樣なら善くない事だ、爲すなとある事は悉く爲されて居るのだ、樹木の盜斫も無論だ、重箱楊枝は禁物だが已れの財產で無いからとて損ずだけ樹て、澄して居るものとすれば職に忠なるものでない、鮮人の爲へ煙管で落葉掻くに遣ふことゝ類たり、五區に區分されたる何區にやあらん一寺宇を見る路の畔森林中に**鮮人の製材に從事**せる遺り生々しき枯損木夥しく積まれたるを眺めつゝ寺門を訪る（つゞく）

●太神宮と參詣人

▽神職三宅氏と語る

京城市民の皇太神に對する崇敬の念が如何なる程度まで形の上に現はれつゝあるかを聽くべく三宅神職を其住宅に訪づれた。三宅氏は正に熱心なる人が機遇を作るとすれば前者に屬すべき人だ、至極もらしい神官顏して徐ろに口を開いて曰く京城の住民は東京大坂乃至九州と都はんより性格が京都人士に極似して居るので因循姑息で一致しない點が多く團結力が乏しくばかりで實を擧げず金を蓄める事にばかり熱中してある數年前迄は大抵は信崇の念とか利神の方面を顧みる人は餘り無かつたが昨年頃から漸く朝鮮も故國と同様になつたといふ考へから土着心も起り同時に胸奥に潜んで居た宗教心も潜々頭を擡げて來た模様である昨今の參詣人は春夏の候に比して甚だ少ないが平均すると一ヶ月三百人內外位のものでしょう中でも釘木藤次郎森久兵衛増田三福富田初太郎の諸氏は殆んど日參してゐる其他各階級の人が朝に夕べに福を祈る如な祈願を犯して參詣されます賽錢の多寡によつて信仰心の厚薄を知ることは出來ないが太神宮天滿宮三光稲荷の三社を通じて一ヶ月五六圓です太神宮神殿の改築問題は刻下の急務で現在のは三十一年に造營した儘で畏れ多い次第である改築の場所は少し殘つた處に少しく手を加へれば今のより十倍餘ある好適地がある速かに崇嚴なる神殿を造營して參詣者の心に其大なる印象を與へ自然に祖先の神に對する惜崇と敬慕の情を禁ずる能はざらしむる様にしたいものである目下神道話會を設けて毎月第二の土曜夜私の宅で辯護士仲買商人といつた諸種の階級の人が集會し各自の信仰を叶露し合ひ經驗を語り合ふて精神修養に資することに力めてゐる今後は之れを擴張すると共に時々知名の士を聘して講話をと云ふ考へである會員は現在七十餘名あり延ては鮮人間にも此の種の集會を催したい希望である云々（一記者）

社告

鳥兎匆々愈極月と相成本紙新年號準備の期も愈相近づき申候就て本紙が此際愛讀者各位に御願致度は本紙新年號に掲載すべき各位玉稿の御寄贈に候其玉稿の論文たると美文たると詩、歌、俳句情歌端歌たるとは各位の御隨意にして本紙は硬軟何れをも歡迎仕候

新年書附錄

本紙新年書附錄は本紙が特に邦畫の大家**川端玉章翁**に依囑して成りたる**勅題松上鶴**の圖にして其高尚優美なるは贅言を要せずと確信候

十二月 京城新報社

●盜人は履小僧 明治町一丁目馬場質店に於て十一月十四日午前〇時三十分より午前六時迄の間に於て質物たる純金指輪十三個（代二百五圓）盜難に罹り旨屆出に接し南部署佐藤長野岸の三刑事犯人及贓品發見に從事中窃取したる手段巧妙なる爲め犯人の何者たるや不明なりしが同家雇人佐賀縣人重松寅次（十六）の擧動不審にて注意中の贓品中の指輪此の頃二三の質屋に婦人の名義にて入質しあるを發見し入質者が雇人寅次なる事判明せしより十四日午前前記三刑事に捕れ取調中

●横瀨一心數開祖 東京本郷區龍岡町舊大學病院前に東亞心理學會の看板を掲げ自ら一心數の開祖と稱する横瀨琢之氏は二十年前釜山に於て客死せる亡父伊達宗陸の展墓の爲め渡鮮仁川に於て施療及び精神講話をなし居たるが十三日入京同夜朝鮮新聞支社樓上に於て有志者と會し一場の精神講話をなせり氏は一週間の豫定にて西大門驛前鐵道官舍佐々木方に滯在し望みにより施療並びに精神講話を爲す由なり

●鮮人の掻浚捕はる 慶尙南道密陽生れ目下住所不定の朴在坤（四二）は本年十月中旬頃より京城市內を徘徊し本町二高木雜貨店にて艶一箇本町五山枝呉服店にて高貴織一反をはじめ到る處にて際を窺つては萬引掻浚ひを手當り次第に働き居たるが惡運盡きて去る十一日西大門外を彷徨中西大門分署の巡査に引つ捕へられたるが餘罪ある見込にて引續き取調中

●優等稻荷草苗分讓 長野縣下高井郡延德村の稻荷草園にては新年に近か附たれば花界に最も觀賞せらるゝ良名花福壽草名祭高き高社庭施產八重長盃黃金色裏紫紅色大々輪咲の上苗五本一組毎に實費二十錢を送らば荷造りに注意し加ふるに培養開花秘法を添ね送附する旨本社に通知ありたりと云ふ

●栗羊羹の賣出し 今度當地鶴屋商店にて發賣せる栗ようかんは長らく橘屋にて出來上つた品にして栗斗で造つた品質優等にして堅くなりても腐る事なく風味佳良茶人用の逸品歲暮贈答品としては五本三本一本の箱入あり

●琵琶の修繕新調 今般當地本町九丁目（新町入口）に新規開業したる宮岡鮮晉堂は內地に於て多年斯業に從事せしが當地有志者の勸誘に從ひ渡鮮前記の所へ開業し極めて廉價高當に應ず可と

仲居評判記（十）

花月のお富美

お役人專門の青樓と仇名されてる花月、其お役人さへも二本筋以上でないと人間放れのした扱を受ける、と惡口半分にせよ噂さる、花月の事であるから仲居藝妓も一般に左樣かと云ふと然にあらずで此所に御披露致すお富美の如きは平等主義の生れ替りだ、生は福岡市西湊町八番地生で本名は葉山する當年正に三十八お世辭にも女盛りとは申し上げぬが一つ二つは若く見ゐる、若し見ゐた所で實際が三十八であつて見れば盛うにも爲つたものでない、況んや子供が二人もある身だもの、仲居としては働き盛り藝妓連もお富美姐さんは依估贔負が無いから何よりだと喜んで居るのは結構である、お頭のお仙さんに劣らぬ受持客があつたのだ即ち大久保大將や木內長官は夫れだつたが內地へ歸還されたので現今ではお役人側で明石彈正大弼兼檢非違使、商人側では南浦の麻生音波君なぞだ就中麻生君の遊びつ振りは豪華のもので一時は現在京城に來て居る兒島事件の張本人江藤恒惠君と爭つた事もあるのだ、江藤君の昨今は知らないが麻生君は今でも上京する度に相變らず豪奢を盡す相で其時其際こそはお富美さんが大に幅の利く時である。

●通關税を女郎屋へ 本町二町目平田雜貨商店雇人長崎縣人上角利一（二五）は主人の命を受け税關に納付す可き金二十圓を橫領し中の新地大阪樓の若蕩を敵方に遊興し浪費したる事南部署長野岸佐藤の三刑事に探知され目下取調中

●下駄屋と新聞屋 本町二丁目下駄商宮崎方雇人大山偵（二二）は本町四丁目町田文林堂の新聞配達人田中權三（二四）を新町遊廓日曜樓前街路に於て毆打負傷せしめ目下取調中

●空家の建具を盜む 南部小公洞居住延龍鎬は十三日午前十一時頃大和町二丁目八十八番戶ノ二の空家に忍入り襖四枚障子十一枚（代十五圓）を窃取し南部署に捕れ取調中

●落したのが原因 吉野町一丁目水島雜貨商店雇人金所爲（二五）は吉野町居住日名順三が遺失したる金一圓三十錢入り財布を拾得し費消したる事發覺し南部署に捕れ取調中

●龍山警察署竣成 曩て龍山藤田組の請負にて同地元町三丁目に新築工事中なる龍山警察署は此程工事略竣成せしに付近々の內新築廳舍へ移轉する由

●間拔な落し物 仁川宮町三丁目金色傳藏は十四日午後四時本町三丁目道路に於て金茶色の肩掛一枚拾得屆出

演藝だより

▲歌舞伎座 中村歌玉一行十五、十六兩日通し狂言は『忠臣藏』打入まで
▲壽座 十五日より開場する新派正劇一行初日の藝題は『檢事舊惡』にして尙歲末興行の爲め十八錢均一なりと
▲浪花館 若遊三一行の落語、手踊り

平民文庫

▲大漢門の左側から西大門に拔ける路には街燈が無いので夜になると西大門附近に住む人は泥濘に出るに電車で舗路から廻らねばならぬ會社で發燈しては貰はないでしょうか（總代）▲總督府中學校の校舍の背後に北內出張店が文房具を賣つてゐる電車通りの近くに山下の出張店が同樣商賣して居る之れだけなら何も不思議はないが体操の先生は下級生徒に對つて山下の店で買つてはならぬと命令するので北內から買ふべく餘儀なくされてゐる先生が依樣ことに迄干涉する權利があるのでしょうか（一中學生）▲夫れは新聞社に尋ねるより校長先生にお尋ねなさい中學生ともあるものが此位の理窟が判りませんか（小僧）▲先日來噂のあつた大官連組織に係る大規模の倶樂部は如何相成ましたか（馬乘小僧）▲〇〇日の夜十二時過本町三丁目交番の查公殿嬉芋を召させられた（ホの字）▲都々逸を募集せよとの御注文別段募集は致さぬが御寄稿あれば歡迎します（係）

名士貴婦人訪問記

（同社は有名なる婦人世界及實業の日本等を發行せられ常に青年子女の指導に務められつゝあり）

穩健にして有益なる雜誌實業の日本社々長

増田義一氏令夫人の談

東洲生

大層御盛大で結構でございますね化粧の話といつて私には別段な意見はございません。私は從來脂肪が多いものでございますから從前から鉀が嫌ひで風呂に這入ります時には、彼の小麥から出る麩を使用つて居ました、此習慣は極く小さい時からですが、袋に包んだり何かするのが、眞に面倒で、夫れがクラブ洗粉ですと、其儘使用が出來ますから近來は面倒のないクラブ洗粉を一番喜んで使用つて居ります、夫ではドウも私共の様な脂肪の多い者は、垢が十分に落ちないやうな心持がいたします、夫れが麩を使用ふと悉皆取れるやうな氣持がするのですが、クラブ洗粉を使用ふと、丁度麩を使用つたと同じ様な宜い心持が致します計りでなく香ひも高尚で至極結構でございます能く世間の人は石鹸を使用つて顔を荒すとか申されます様ですがクラブ洗粉は澤山使用つても決して左様なことはありません。モー一つクラブ洗粉の特長を申しますれば、使ひかけて永く置いても決して質の變らないのが他の洗粉に比較べて大層宜い様に思ひます。白粉は私は以前他の白粉を使用つて居りましたが、近頃はクラブ白粉ばかり使用つて居ります。大變宜い様でございます。それに私はクラブ化粧水を好んで居ります故、クラブの煉白粉を化粧水で溶いて使用つて居ります、無論普通はクラブ水白粉で結構ですが、白襟の衣裳でも着る時には襟首が餘り黒から煉白粉を使用つて居ます云々。

小川一眞氏令夫人の クラブ化粧品實驗談

（小川氏は吾が邦寫眞界の泰斗令夫人は維新の元勳板垣伯の令嬢なり）

私はクラブ洗粉の實驗者で、常に受用して居ります。洗粉も昔は豌豆で製したとか聞いて居りますが、クラブ洗粉は何で製造される事か知りませんけれど、何れ現今の進歩した科學的研究を積まれ、衛生に適し無害にして且つ垢や脂肪のよく除れる材料を使用されて居りませう、私などの實驗によりますと他の洗粉は使ふとドウもヨレテ心持が惡い、クラブには決して夫れがないのが先づ第一に喜ばしい點ですさうして使用した後は、サツバリとして誠に心持が宜い又白粉の走りも至極工合が宜しい様で、殊に久しく箱の口を明けて置いても餘り變質粉にならないでヨレル憂ひのないが何よりと思ひますクラブ粉白粉も折々用ひて見ますが、是れも結構の様に思ひます。尚湯上りの時など、汗の多く出ます時、打粉白粉を用ひますと、サツバリとして氣持の宜いばかりでなく皮膚の清潔をも保ち、併せて垢のつくのを豫防致します。

旅行家として足跡天下に遍き某博士は曰へり

汽車旅行に於て機關車より吹き送らる煤煙ほど不快にして且不衛生なるものはなし、しかも客車には洗面所の設備あれど、其處に備へ付けられたる石鹸は此等の煤煙を洗ふ爲めには實に効力が薄い、故は余は經驗の結果により旅行には必ずクラブ洗粉を用意す、蓋し煤煙の汚れ等に對してもクラブ洗粉は最も有効なりと。